

財六甲台後援会だより

(七)

ロイ・スミス館とその修復

神戸大学の西、護国神社上の坂道を登ったところにあるロイ・スミス館に、財団法人神戸大学六甲台後援会の事務室があることは、皆さんには余りよく知られていません。そのロイ・スミス館は、わが六甲台後援会が昭和三十五年に先生のために、立派な庭のある二階建の住宅を購入したものです。その家はその後、先生が日本を離れられた昭和四十三年まで先生のご住居として利用されました。ご帰国後の昭和四十七年、この会館の玄関正面の壁に、四十七センチ×六十七センチのブロンズ板に、「THE ROY SMITH HOUSE IN MEMORY OF PROF. ROY SMITH 1878-1969」と刻まれた銘板が取り付けられ、正式にロイ・スミス館と呼ばれるようになり、ました。スミス先生がどんな方であったかを知っておられる凌霄會員は、残念ながら段々少なくなっています。もともと、お若い方々、また現役の学生諸君でも注意深い人は、現在、六甲台学舎の正面階段を登った前庭の西側にロイ・スミス先生の胸像が建っていることにお気づきでしょう。あの胸像の裏面には、これ以外にもたくさん、の名句を残しておられる先生の「YOUR LIFE IS WHAT YOU MAKE IT」の文言があり、また、その下には、「先生の徳風を称え友人、師事したる者相集いこの胸像を建つ 一九六八年先生卒壽の年」と刻んだ銘板がはめ込んであります。ロイ・スミス先生が教

育者としてわが国でどれほど高い評価を受けられたかは、一九六八年に外国人としては数少ない勲二等瑞宝章の叙勲を受けられたことにも象徴されています。

スミス先生は、明治三十六年、二十五歳でY.M.C.A.関係の英語教師として来日、そのご経験から一層の知識、学力の必要性を痛感されたのか、明治三十九年に一日帰国され、ニューヨーク大学で商学修士、シカゴ大学で学術修士の学位を得て、明治四十二年に再び来日されました。

神戸高商には、その年の九月にご着任され、その後実に五十九年という長い間、商業英語、英文簿記、貿易実務、外国貿易、英会話などのほか、アメリカ文化史、英文学講読などの授業を担当してこられました。昭和四十三年、いよいよ帰国されることになった謝恩歓送会で八木弘学長が全学を代表して述べておられるように、スミス先生は、「深い学殖と真摯な授業態度、またその勤勉さ、深い愛情」で、学生に大きな影響を与えられ、敬愛を受けてこられました。

先生は、戦時中一時帰米された時にも、当時抑留所に収容されていた在米日本人の救済のためにご活躍になるとともに、昭和二十年九月、シカゴ市民クラブの会で開かれた「日本占領に関する討論会」で、日本占領の短期化を強硬に主張され、その後の世論形成にも有力な基礎を形成されたと伝えられています。

先生は、以前に亡くなられたシャロット夫人の遺骨を、その遺志によって太平洋の真中に葬られたこともあって、先生自身も、「私どもの一生は日米親善に捧げたのだから、自分の死後も家内の場合と同様に取り扱ってもらいたい」と常々希望しておられたことを忘

れることができません。ここに、先生の回想録「A Half-Century in the School of Japan」(それは、昭和四十四年に、スミス先生の記念事業会に協賛された凌霄会員と有志数百名に贈呈されたのであるが、残っているのは、その三十七章中二十五章を大学英語教科書風に三戸雄一・寛寿雄教授らが再編された英宝社版のものである)もありますが、その中には、今でも私たちが反省を迫られる多くの貴重なご意見がちりばめられています。

先生が帰国されてから、ロイ・スミス館は、神戸大学で出講される外国の先生方の宿舍として利用されるようになりました。しかし、早いもので、それから四十年近く過ぎました。大学紛争時、学舎が封鎖された時には、スミス館は、経理部の事務室と広報委員会室となり、新聞記者の皆さんのクラブ室ともなりました。しかし、時間の経過につれてスミス館も段々老朽化し、宿舍として利用して頂く外国人教員の皆さんからも、いろいろな苦情が出るようになってきました。後援会としては、その都度部分的な改装を重ねて参りましたが、この二年間ほどで相当大規模に改修いたしました。時に関心をお持ちになる凌霄会員の方がお訪ね下さることもありますが、これからはより多くの方々が、できれば事前にご連絡を頂き、ロイ・スミス館をお訪ね下されば幸甚です。

寄付金について

平成十六年から国立大学法人化に対応してお願いをしてきました皆さんからのご寄付は、お蔭さまで本年度(現在)だけでも二、三三万円に達しました。後でご紹介する四名の個人と予科一回生の

皆さんの他に、去る十一月十日には、故新庄博ゼミの皆さんから、三百万円の寄付金を頂くことになりました。ゼミの会からは今迄も宮田喜代蔵先生のゼミなどからも頂いていますが、今回は新庄博ゼミOB会実行委員会代表の三木谷良一・鈴木登・高倉六雄の三氏のお名前で理事長宛に寄付についての文書が到着し、前述の日の午前十時、新野理事長と経済学研究科長代理・田中康秀教授および金融経済論担当の藤田誠一教授と当事務局の海野事務局長が出席して、同会の三木谷、鈴木の両氏から贈呈を受けました。同会の寄付金は、「今後、故新庄博先生のご専門分野である金融経済学の振興・深化に貢献できる使途に役立ててほしい」という特定の希望が付けられていました。そこで当事務局としては、学内理事会の同意を得て、この寄付金を経済学研究科でその目的に合致するよう責任をもって運用してもらうことにしました。

以上のほか、十一月十二日にはまた、法・経済・経営の三学部の昭和四十一年卒業生の皆さんが、卒業四十周年の行事を持たれ、それを記念して集められた百六十万円を六甲台後援会に寄付して頂きました。なお、新庄博ゼミOB会および前記卒業四十周年を記念してご寄付を頂いた皆さまには、事務局からご寄付金額の多寡に関係なく、全員に寄付受領証と所得控除の証明書とお送りさせて頂きました。

なお、昭和四十一年ご卒業の皆さままで今回ご寄付下さった方々の氏名・寄付金額などは、紙面の都合上、次号に掲載させて頂くことをご了解下さい。

前号記載以降にご寄付頂いた方々は以下の通りです。

加藤英明様(前教授・経営) 五万円

福住 實様(昭20) 一〇万円

凌霄思誠会予科一回生(昭20) 一〇〇万円

堀 功郎様(昭32・法) 一〇万円

福渡 透様(昭32・経) 三〇万円

新庄博セミOB会 三〇〇万円(以下、御芳名)―敬称略、順不同―

(一五万円) 井上聰一

(一〇万円) 松村元雄

(六万円) 岩橋久夫、宮尾榮一

(三万円) 平田二郎、平山政次郎、鈴木敏男、島 博、萩森 勝、

広瀬脩二郎、藤尾 修、坪井珍彦、高本和夫、水田義明、赤倉一男、

田村扶起、高倉六雄、安田嘉雄、岩崎正視、鈴木 登、塚本 孝

(二・一万円) 豊喜武治

(二万円) 別所 保

(一・八万円) 山西陽一郎

(一・五万円) 鶴 浩一、和田慎三、米谷 収、注連恭郎、黒田

弘、上之蘭久、松井繁和、松本淳一郎、竹野善一、齋藤 満、藤尾

博、寺田 久、小林一三、吉尾匡三、室園秀一、江渕正昭、赤井

弘、今仲 武、大東政昭、久保田悦治郎、廣田雅良、長嶺 寛、坂

本茂男、小谷憲明、岡本好央、山脇利昭、福岡 登、大島直也、平

松健治、宝川英敏、三島正義、松本直身、唄野 隆

(一・二万円) 服部茂久、野村照夫、霜浦正敏、大塚 豊、木山宗

一郎

(二万円) 八田 敏、中野恒雄、安部一成、三木谷良一、三木谷節子、水谷公泰

(九千円) 佐藤哲夫、豊島 卓、八尾正二、松尾 繁、水谷靖治、

茂田哲夫、西上俊男、大崎隆三、鹿海 武、江川吉光、高垣和夫、

藤本晃三、尾崎康雄、片山秀雄、石塚一博、土江公二、佐瀬一男、

松原 博、白檀文夫、尾藤繁樹、魚橋哲雄、小早川貫治、佐治義久、

片山市蔵、弓岡静夫、小林 繁、中 宣好、小川三郎、大野 紘、

鶴飼敏哉、森田邦夫、森 一、長澤昌平、山本章雄、直原香二、藤

田純孝、築山一男、胡麻尻明廣、安部 薫、北川 一、牧原恒吉、

千葉修二、湯野 勉、林莊八郎、池田昌三、小川道夫、北 莊、福

泉脩二、南 一男、中井 宏、馬島尚平、岡上 聰、奥野昭三、井

手行也、阪田欽三、小林昭雄、岡本 修、大久保伊織、中川安雄、

片山貞雄、藤田享佑、山崎英明

(六千円) 池田 宏、岩崎隆年、泉 伸夫、長尾 晃、藤中 武、

糸井歳清、杉田文夫、田辺 信、平井昭夫、濱田 旺、河野弘祺、

杉田侑司、小寺 茂、田尻清耳、伊藤 一、吉川信治、中新卓爾、

戒田真幸、松田孝志、上村久治、岡野信行、楠井 収、松岡茂雄、

中野和夫、森 孝生、赤尾光俊、東 稷、土橋芳邦、今井清信、千

馬秀夫、佐藤 格、奥村 優、大畑 卓、上原俊二、河野弘一、荻

原 剣、落合 昭、松下義治、河原滋夫、滝田恵一、藤田庄治、小

林恒夫、黒田達郎

(三千円) 杉本芳之助、井上武治、坂本敏夫、上山元一、内田春樹、

岸本史郎、西村完治、白神慶生、神谷彰一、山下史朗、松村隆彌、
弘中恒生、嘉納和彦、鈴木雅武、小栗洋一郎、伊吹真一、太田典幸、
山本正進、竹内寿夫、白濱孝一、亀井武彦、近藤明三、小山武章、
今西元郎、北村幾太郎、村瀬 宏、杉原功啓、森脇立夫、金川 宏、
宮田巨朗、村屋勲夫、井手素也、高塚昌治、安藤訓行、小西一弘、
井上恒久、石田 肇、田中 温、浪田博之、高見満夫、中島英之、
岩永浩明、本郷 孝、塩田惇夫、小村衆統、松尾祥一、伊東史郎、
春江道隆、山本 要、中川健一、権藤雅彦、武内康郎、友住彰男、
安藤和夫、櫛岡 隆、福本亮治、加藤 肇、志甫忠男、前田嘉宏、
小野武義、岩瀬哲也、廣本 忠、一ノ瀬篤、内田 光、貞木展生、
守永 寛

右の他にOB会繰越金 四三二、〇〇〇円

寄付金の送り先は左記の通りです。よろしく願います。

◎銀行送金の場合（領収書等送付の便宜上、必ずご一報下さい。）

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金口座 四〇六九四九六

口座名義 財神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合（卒業年・学部等をご記入下さい。）

口座番号 〇〇九八〇一九一―一六七七二

口座名義 銀行の場合と同じ

（財神戸大学六甲台後援会事務局）

〒六五七―〇〇六八 神戸市灘区篠原北町四―一―五

電話・FAX（〇七八）八六一―三〇一三

◇個人情報保護に関する取り組みについて

「個人情報保護法」が平成十七年四月に施行されました。社団法人凌霜会は会員・準会員に関する情報こそまさに保護法にいう「個人情報」そのものであるとの認識に立ち、次の基本方針を掲げて全役職員が業務に当たっています。

・個人情報保護に対する基本方針

社団法人凌霜会は、会員、準会員から預かった個人情報の保護及び適正な使用に努めることを社会的責務として認識し、すべての従業員が以下の項目について取り組むべく宣言します。

一、個人情報に関する法令及びその他の規範を遵守します。

二、事業活動に当たっては、事業内容及び規模を考慮し、適切に個人情報の収集、利用、提供に努めます。

三、個人情報の取り扱いに当たっては安全性を重視し、情報への不正アクセス、情報の紛失、破壊、改ざん及び漏えい等のリスクに対する予防と是正に関する対策を講じます。

四、コンプライアンス・プログラムの継続的改善を行います。

右の基本方針に則り、業務を安全かつ円滑に進めるために、

①会員・準会員データの授受及び更新の処理について

②会員名簿の取り扱いについて

③外部からの個人情報問い合わせについて

④業務委託にかかわる関係先との覚書取り交わしについて

等に関してマニュアルを定め、全従業員への周知徹底及び実行に努めています。

（社）凌霜会